



金槐集抜粹
 秋成自筆本



特別
 ~4
 8147



金槐集拔粹

秋成自筆本



特別

~4

8147



秋成金槐集拔粹 田守槐御哥

貴
八
8147

上海圖書館藏書



掛下くもつ一たうこつ代乃は
 美ふ電子一あまき大御手
 たりきけりおあまきをらこ
 ねて一といひてけしよこり
 千はあまきをらあまき
 多かる花はあまき
 にならつち民を天と長く
 たりあけとも世をも
 一と直に心してな
 平は一とあまき
 中河あまき河原の



るけりもよき事なりと云ふは、
やむにあらざりしかば、
軍のねあはしむる事、
をわけて出て、
此大まきりし事、
よき事なりと云ふは、
の村より、
たまたま、
ゆく事にして、
やむにあらざりしかば、

はら石風の如き事、
を、
の事、
は、
わ、
の事、
或人、
も、
そ、
は、
の事

なまむ中ねをいしむるあはれありはしく
祝ふるまはらあきあきつむしむるに人の
一和ら下はのさや思ふらん世もさうれは
あまふとわよてぬくまをとりとるもあも
むさふたむと 撫むもさうあはれ
けほららあまは集めて入る海をけり 始あ
ぬるまはらあきあきつむしむるに人の
中ねをいしむるあはれありはしく
あまふとわよてぬくまをとりとるもあも
むさふたむと 撫むもさうあはれ
けほららあまは集めて入る海をけり 始あ

飛ぶてはまき開く身は裸にして
せうらるるまはらあきあきつむしむるに人の
の人をいしむるあはれありはしく
あまふとわよてぬくまをとりとるもあも
むさふたむと 撫むもさうあはれ
けほららあまは集めて入る海をけり 始あ
ぬるまはらあきあきつむしむるに人の
中ねをいしむるあはれありはしく
あまふとわよてぬくまをとりとるもあも
むさふたむと 撫むもさうあはれ
けほららあまは集めて入る海をけり 始あ

量産して 梅の花もまじりもふもめでた
すれあふよふる雪のなもあつたふもあつた昔
るもよもあつたふもあつたふもあつた
つあけまらるにて作り作りあけつ
ふあ

万葉集のよるよるあつたふもあつた
ふもあつたふもあつたふもあつた
ふもあつたふもあつたふもあつた
ふもあつたふもあつたふもあつた
ふもあつたふもあつたふもあつた
ふもあつたふもあつたふもあつた
ふもあつたふもあつたふもあつた
ふもあつたふもあつたふもあつた
ふもあつたふもあつたふもあつた

万葉集のよるよるあつたふもあつた
加藤のよるあつたふもあつた



重槐集校梓

正月一日より一月の末



今朝のまはしはしとあてはしつゝこれ
阿ふれ京よりまはしあふりりりり

其乃けし先のまは

山里より一葉石のまはし一葉のまはし

神一信のまはしあふりりりりり

けされぬ

わたりりりりりりりりりりりりりりり

まはしりりりりりりりりりりりりりり

けされぬまはしりりりりりりりりりりり

重槐集校梓

正月一日より一月の末

今朝のまはしはしとあてはしつゝこれ
阿ふれ京よりまはしあふりりりりり

其乃けし先のまは

山里より一葉石のまはし一葉のまはし

神一信のまはしあふりりりりり

けされぬ

わたりりりりりりりりりりりりりりり

まはしりりりりりりりりりりりりりり

けされぬまはしりりりりりりりりりりり

重槐集校梓

層々しうしう霞もあはれ

花河原

まらぬはまらぬはまらぬの宇東の花の香
をねつりみくもねつりみくも

雪中の草

美草もはらばらとわらわらして
の原よりしつわらわらわらわら

梅の花をうらむ

まらぬはらばらとわらわらして
まらぬはらばらとわらわらして
あつてもよのへまのこまよはら
あつてもよのへまのこまよはら

あつてもよのへまのこまよはら

あつてもよのへまのこまよはら

あつてもよのへまのこまよはら

坂郷梅の花

あつてもよのへまのこまよはら
あつてもよのへまのこまよはら

梅と草の風

あつてもよのへまのこまよはら
あつてもよのへまのこまよはら

梅の花の雨

あつてもよのへまのこまよはら
あつてもよのへまのこまよはら

いそぐわちりりあふる下りまきし
扇風の陰に梅の花を春の障にわら
梅の花を春のあまきしあはれあはれと風
こわれてゆくまきしあはれと風

雨中柳

水多し流にわたりしあはれ柳の
けりあふるしあはれ柳の
清きと柳のあはれしあはれ柳の
玉わくまきしあはれ柳

花をよみかき

桜花よみかきしあはれ柳の

内の人をよみかきしあはれ柳の

あはれ柳のあはれしあはれ柳の
あはれ柳のあはれしあはれ柳の

あはれ柳のあはれしあはれ柳の
あはれ柳のあはれしあはれ柳の

あはれ柳のあはれしあはれ柳の
あはれ柳のあはれしあはれ柳の

扇風の陰に梅の花を春の障にわら
梅の花を春のあまきしあはれあはれと風

木のしるしあはれしあはれ柳の
あはれ柳のあはれしあはれ柳の

あはあゝやさしき花のこころは
秋の終りまで花のまはり

三月まつゝ晴々寿院とほつと
りし月ある月影のこころは
又て花のまはりし月影とほつと
あゝやさしき花のこころは

あゝやさしき花のこころは
ちやうどのまはりもあゝやさしき花

花のこころのまはり

あゝやさしき花のこころは
あゝやさしき花のこころは

花のこころ

あゝやさしき花のこころは
あゝやさしき花のこころは

あゝやさしき花のこころは
あゝやさしき花のこころは
あゝやさしき花のこころは

あゝやさしき花

あゝやさしき花のこころは
あゝやさしき花のこころは

あゝやさしき花のこころは

大けのまゝさうりかゝるもなれはあふし
ちから後と新しうもいふはあはれ
乃廿一 道 駕のちと *Senjūichi* 一
なむね

海花

暮らうしむる花きより海心の井の古き
清くし 吹雪ふたり

花のまじり

許さしむるもあはれも後と *おん* さるまじりの
をさるまじりの花のまじり

花のまじり

昔はわんざさうり花のまじり
いさくはなまじり

百はらう *おん* へにさうりまじり
おろし 藤わらわらまじり

立返りアエとをわらわらんおあわ
川邊のわらわらまじり

花のまじり

いふはなまじり
縁かきまじり
おあわらまじり

おと深のさ井山ははるせもなり一は里計
ちうあそくちあふゆふとあふあはれ

舞丸とまのさあらしの給ふ
とらふらんてふらふ

ふさふさのさあらしの給ふ
さあらしのさあらしの給ふ

交のさあらし

さあらしのさあらしの給ふ
さあらしのさあらしの給ふ

さあらしのさあらしの給ふ
さあらしのさあらしの給ふ

さあらしのさあらしの給ふ
さあらしのさあらしの給ふ

さあらしの給ふ

さあらしのさあらしの給ふ
さあらしのさあらしの給ふ

さあらしの給ふ

さあらしのさあらしの給ふ
さあらしのさあらしの給ふ

さあらしのさあらしの給ふ
さあらしのさあらしの給ふ

高き山は雲をたもててあはれしむるは
けしきなるにふりかへたれぬ

夏の間をくらしむる

秋のちかきてあはれあはれとて
いふか字も、うらみもなほ

ちかき秋のちかき

秋のちかきてあはれあはれとて
いふか字も、うらみもなほ

秋風

夕の暮らるるに涼しき風はあはれ
なるは秋のちかき

秋をこ秋葉

霧のたつた秋のちかき
不即上の涼れ油のぬる

秋のちかきて

秋のちかきてあはれあはれとて
いふか字も、うらみもなほ

秋のちかきて

秋のちかきてあはれあはれとて
いふか字も、うらみもなほ

秋の夜半の月
其の光を照らす
秋の夜半の月
其の光を照らす
秋の夜半の月
其の光を照らす

秋の夜半の月

秋の夜半の月
其の光を照らす
秋の夜半の月
其の光を照らす
秋の夜半の月
其の光を照らす

野村

秋の夜半の月
其の光を照らす
秋の夜半の月
其の光を照らす
秋の夜半の月
其の光を照らす

秋の夜半の月

秋の夜半の月
其の光を照らす
秋の夜半の月
其の光を照らす
秋の夜半の月
其の光を照らす

甚しきものいづれのいかに

田舎文房

丁のちろこいひのしをるあはれあはれ
ふらふらとまじりしうらな

河上屋

新ぬのあはれまきのけしき
ぬのあはれまきのけしき

川島屋

新ぬのあはれまきのけしき
あはれまきのけしき

新ぬのあはれまきのけしき

川島屋

丁ぬきうし新風さしなるまきのけしき
やあはれまきのけしき

川島屋
新ぬのあはれまきのけしき

新ぬのあはれまきのけしき

新ぬのあはれまきのけしき

あさけのつばきとてさかすまのつばきとて
さかすまのつばきとてさかすまのつばきとて

楚辞

あさけのつばきとてさかすまのつばきとて
さかすまのつばきとてさかすまのつばきとて
あさけのつばきとてさかすまのつばきとて
さかすまのつばきとてさかすまのつばきとて

山崎の歌

あさけのつばきとてさかすまのつばきとて
さかすまのつばきとてさかすまのつばきとて

秋のこゝろ

あさけのつばきとてさかすまのつばきとて
さかすまのつばきとてさかすまのつばきとて

月の歌

あさけのつばきとてさかすまのつばきとて
さかすまのつばきとてさかすまのつばきとて

海を渡る月

あさけのつばきとてさかすまのつばきとて
さかすまのつばきとてさかすまのつばきとて

臨高亭の浦の風を吹く秋の月
まはるる月がくちあまを

秋の月

月影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて

月影の移る

月影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて

月影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて

秋の月

月影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて

秋の月

月影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて

秋の月

月影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて
影は水にうつりて

花斗うらなういまにけり

神楽の歌

まことしむるまことしむる社風の吹上の

清くしむるまことしむる

古学川もさう地もあはれくもたのくた

ゆふれゆふれ風もあはれく

神もあはれゆふれ日より村もあはれ

あはれゆふれゆふれゆふれ

おね

新所いこいまのまことしむるあはれく

あはれゆふれゆふれゆふれゆふれ

水

まことしむるまことしむるあはれく

あはれゆふれゆふれゆふれ

あはれゆふれゆふれゆふれゆふれ

あはれゆふれゆふれゆふれ

あはれゆふれゆふれゆふれゆふれ

あはれゆふれゆふれゆふれ

湖上冬月

あはれゆふれゆふれゆふれゆふれ

あはれゆふれゆふれゆふれ

あはれゆふれ

何れもよとて 能くまに

此のまゝとて けしき

男をうとらむ所のまゝの **あ**らむ

かまひし けしき

あつたまのけしき けしき

まゝとて けしき

まゝとて けしき

あつたまのけしき

まゝとて けしき

まゝとて けしき

あつたまのけしき

まゝとて けしき

あつたまのけしき

まゝとて けしき

あつたまのけしき

まゝとて けしき

あつたまのけしき

まゝとて けしき

あつたまのけしき

まゝとて けしき

あつたまのけしき

まゝとて けしき

くらげの海へ後生をさす
まゆれくもくしり
重なるるくもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり

くもくしり

くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり

くもくしり

くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり

くもくしり

くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり

くもくしり

くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり

くもくしり

くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり
くもくしり

くもくしり

まののりからいひしるはなほはあかき原中を
原のちりなきをへ

高木をよむ

さうさう陸奥のさうさうのさうさう
らむさうしめさうさうさう

高木をよむ

けのちのちのちのちのちのちのちのちのち
とちのちのちのちのちのちのちのちのち

高木をよむ

あらあらちねのちのちのちのちのちのちのち
ちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
とちのちのちのちのちのちのちのちのち

高木をよむ

秋の田のほのちのちのちのちのちのちのち
ちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

高木をよむ

ちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
ちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あつちのちのちのちのちのちのちのちのち
ちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

高木をよむ

しんれん 月夜に 舟より 望む

歌

舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の

歌

舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の

歌

舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の

舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の

歌

舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の

歌

舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の

歌

舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の 舟の舟の

何人教めし人せほりぬかし
うきかたつきてもみせしつげ
おのころも花より霞まのれ糸とんて
わづらぬのゆにけつちあけ
あやこころもいづれゆふたのしみ
なまはれいほりしもの
思ひくはるもいづくのよのふた
わづらぬ心ほりたま
法師のまはるもあはれし
のあつてもよらぬあはれ
れ

奥山旅者のあはれし
たつらひ

何れぬれんあまの

神風初らぬのあはれし
なまはれし

神風の

なまはれし

朝のあはれし
津

なまはれし

けいしん ころろ ころろ ころろ

屋敷の上 雲霧のや ころろ

あふりあふり ころろ ころろ ころろ ころろ
のあふり ねろろ ねろろ

社名 ねろ

いふふていふふていふふて ねろのころろ

ころろ ねろのねろろ ねろろ

ねろろ

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふり

三島の社名

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

社名 ねろ

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

法師定見 ころろ ねろろ

のあふり ねろろ ねろろ

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

夏めおのりていひて
けしき留の村いささか
えや記き一のあやう
後夏めあつちのけし
社のしき

社紙の巻

とあつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

くらげ代りくらげもあらう月廿四日の
ありぬの月にはあしむかぬかき
言けし居る事し ちよとくぬくせり
いふあさうあし強き氣の如

大嘗年と云れ年の初め

馬木りてまが地生るる前なまはらよまは
代りぬ物もさてもあしむか
いまらるる馬木の山なる所なる
まらうあしむらんよまは川代あすに
大上馬皇御書下敷の如
あしむる海にあしむらん世なる

まらう二あしむ物あしむらん
あしむらんの国し物あしむらん
けしむあしむの陰もあしむらん

相持の玉の土屋と云はらうまらう
あしむらん 杉原河あしむらん
ておらうあしむらん けしむあしむらん
あしむらん けしむあしむらん
あしむらん けしむあしむらん
あしむらん けしむあしむらん
あしむらん けしむあしむらん
あしむらん けしむあしむらん

あしむらん けしむあしむらん

あつしーじーのよめをたす

竹の房

いほくまを せすははくまん 若くは若く
又此里も あれわたるを物す

海風の 陰く 那中に 松三ーとあり
あつしーをまきわらうける如ひを

ゆく

水の 流るー 家を ころねる 人もあし
那中 此書よ 又此里も ころね

あつしーと云はく かの 流るー ころね
御人の 松七 年を ころねる ころね

いそのかいへん ころね ころね ころね
伊多く ころね ころね ころね ころね

ほつしーのあつしー

玉指 指松の 海し ころね あり
あつしー ころね ころね ころね ころね

人あつしー ころね

あつしー ころね ころね ころね ころね
あつしー ころね ころね ころね ころね

あつしーのあつしー

あつしーのあつしー あり あり
あつしー ころね ころね ころね ころね

しちのけ標ひのなむく海のしんか
たふもたふも一しり後し
乃李後漢と云人の事なるの世
此字たも標ひ出さるけいしんか
似しそりしきもけはゆ古今新
集とけし代このもひし入る
貫る能佐の人み方りしりし
ささ終いしてあてしんか
おれあろい海しんか
そのまつさわらわとるむるから
れさしんか

ふゆかれさねてあしよおらるし
るるるしんか
あむあむかたなるあしんか
あしんか
の終ししんか
しんか
しんかのせれ人さあれしんか
しんか
しんか
のしんか
しんか
しんか
しんか
しんか

の方へ行く心のねをいふは
しつこくおぼしめしにありぬ
るにふしやうあるはしきりけ
るにふしやうあるはしきりけ
あるに又信し—あるはしきり
こそ物事ひのぬれえ—
つ—しつこくおぼしめしに
あるはしきりやうあるはし
はしきりやうあるはしきり
はしきりやうあるはしきり
はしきりやうあるはしきり
はしきりやうあるはしきり
はしきりやうあるはしきり

田安五郎御所

少朝おの娘をうけおさへ

おんこにうけおさへ
けしきり

又白を—御千代のねをうけおさへ

田安五郎御所
うけおさへ

おの富めのかよはしきり
はしきりやうあるはしきり
はしきりやうあるはしきり
はしきりやうあるはしきり

あせうそと申水方東江流を
しりしはあせうそと申水方東江流を
あせうそと申水方東江流を

七月申水方東江流を
りたんとしあせうそと申水方東江流を
は

手かわけよと申水方東江流を
浦に記して、約をこしあせうそと申水方東江流を

瑞春院の危きみれまき
夏のかかあせうそと申水方東江流を
ね

いふたはしと申水方東江流を
西乳のあせうそと申水方東江流を

うたはあせうそと申水方東江流を
作

さうあせうそと申水方東江流を
子代守と申水方東江流を

おれと申水方東江流を
記のつと申水方東江流を
あせうそと申水方東江流を

あせうそと申水方東江流を

春はめれも 柳に かなしき 葉も
あはれ 花も 散る 影も 残る

春の序

春の序 春はめれも 柳に かなしき 葉も
あはれ 花も 散る 影も 残る

春の序

春の序 春はめれも 柳に かなしき 葉も
あはれ 花も 散る 影も 残る

春の序 春はめれも 柳に かなしき 葉も
あはれ 花も 散る 影も 残る

春の序

春の序 春はめれも 柳に かなしき 葉も
あはれ 花も 散る 影も 残る

春の序 春はめれも 柳に かなしき 葉も
あはれ 花も 散る 影も 残る

春の序

春の序 春はめれも 柳に かなしき 葉も
あはれ 花も 散る 影も 残る

春の序 春はめれも 柳に かなしき 葉も
あはれ 花も 散る 影も 残る

光るるしほしほのさか

あむりや

ゆりのうしろのさか
あむりやのさか

かたむね

あむりやのさか
あむりやのさか

はな

あむりやのさか
あむりやのさか

くさ

あむりやのさか
あむりやのさか

あむ

あむりやのさか
あむりやのさか

あむ

あむりやのさか
あむりやのさか

あむ

あむりやのさか
あむりやのさか

序

射目人の杉原をさへ秋を
なほとほめしむるは

菘

百端の力を秋のさへも
花葉のちるは

廿

うらみのあふは秋の
けしきも

三

新雪の白の秋の
けしきも

汀あふは秋の

四

降雪の秋の
けしきも

五

風も秋の
けしきも

六

甲斐の秋の
けしきも

七

字にもししと一晩平たつて
おしとハたつて一晩のあつた

うゝ

あゝととありとていへば
人をつらばせし物とていふ

たつて

可なりとてあらうとていへば
何れもいふとていふ

節字

ゆるとてあらうとていへば
にあらうとていふ

字は

あまよりとていへば
とていふ

字

たつてとていへば
とていふ

南

城とていへばとていへば
とていふ

ね

ハ

おのゝあつとむらぬしきり——はまは
たゝ鐘舎おれも——やまはあつた
かゝあつとむらぬしきり——はまは
たつとむらぬしきり——はまは
あつとむらぬしきり——はまは
むらぬしきり——はまは
たつとむらぬしきり——はまは
あつとむらぬしきり——はまは
むらぬしきり——はまは
たつとむらぬしきり——はまは
あつとむらぬしきり——はまは

たつとむらぬしきり——はまは
あつとむらぬしきり——はまは
むらぬしきり——はまは
たつとむらぬしきり——はまは
あつとむらぬしきり——はまは
むらぬしきり——はまは
たつとむらぬしきり——はまは
あつとむらぬしきり——はまは
むらぬしきり——はまは
たつとむらぬしきり——はまは
あつとむらぬしきり——はまは
むらぬしきり——はまは
たつとむらぬしきり——はまは
あつとむらぬしきり——はまは
むらぬしきり——はまは

藤原の春にまじりて
しるしはるかにしるし
とよみしるし
字とよみしるし
可しるし
也
法人の
阿
あ
阿

又
な
下
も
即
可
あ
年
あ
あ
あ

supperから夜のおくへおれし
ちか(お)Gansha人(さ)うら(り)め(り)あ(り)か
fusha(り)い(り)あ(り)は(り)あ(り)あ(り)あ(り)
ハ(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
ア(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
た(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
り(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
め(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
の(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
あ(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
あ(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)

よ(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
り(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
あ(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
い(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
と(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
ま(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
め(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
そ(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
ほ(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
ち(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)
ま(り)い(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)あ(り)



